

科目名	マクロ経済学基礎				
授業形態	講義	学年	1		
開講時期	2022年度 前期	単位数	2		
担当教員	木谷 耕平				
内容および計画	<p>マクロ経済学では、経済全体に関わる現象を研究する。この授業では、成長する国とそうでない国があるのはなぜか、失業が発生するのはなぜか、物価水準がどう決まるのかといったテーマについて考察する。ミクロ経済学と同様、マクロ経済学も現代経済学の中心となる分野である。現実の経済を理解する上で、その知識は欠かせない。この授業では、講義と問題演習を通して、マクロ経済学の基礎を習得する。</p> <p>なお、経済学を学ぶためにはある程度の数学的知識が必要となるが、この授業では必要な知識は適宜解説する。履修において、四則演算より高度な数学の知識は必要ない。</p>				
1	イントロダクション：マクロ経済学とは何か				
2	経済学者らしく考える：経済学の方法論				
3	マクロ経済学のデータ（1） 国民所得の測定				
4	マクロ経済学のデータ（2） 生計費の測定				
5	長期の実物経済（1） 生産と成長				
6	長期の実物経済（2） 貯蓄と投資				
7	長期の実物経済（3） 貸付資金市場				
8	長期の実物経済（4） 投資の理論				
9	長期の実物経済（5） 失業				
10	長期における貨幣と価格（1） 貨幣システム				
11	長期における貨幣と価格（2） 貨幣量の成長とインフレーション				
12	開放経済のマクロ経済学（1） 基本的概念				
13	開放経済のマクロ経済学（2） 為替レートの決定				
14	開放経済のマクロ経済学（3） 開放経済のマクロ経済理論				
15	授業のまとめ				
教科書					
	タイトル	著者名	出版社	ISBN	発行年
	『マンキュー経済学Ⅱ マクロ編（第4版）』	N・グレゴリー・マンキュー	東洋経済新報社	9784492315200	2019
参考書	井堀利宏 『入門マクロ経済学 第4版』 新世社				
成績評価					
	評価方法			割合(%)	
	期末試験			70	
	小テスト			30	
・小テストは、数回実施する。詳細は、最初の授業で説明する。					

・期末試験及び小テストは持ち込み不可。

学習到達目標	以下の3点をこの授業の到達目標とする。①マクロ経済学の用語や考え方を理解する。②マクロ経済学の考え方を現実社会の問題に応用し、分析できる。③新聞記事やニュースの内容を理解し、批評することができる。
先修条件	
実務経験	実務経験あり：日本の政府系機関にて、発展途上国のマクロ経済及び債務持続性の分析に従事した（1年半）。こうした経験から得た知見も踏まえて講義を行う。
その他	私語など、授業と関係のない行為は慎むこと。